

人のふりみて、わがふり直せ

こうしてわたしは、「やっぱり『歩け』方式でなければいけない」と思いました。「積み木、天気、汽車……」はじめから、こういう形で教えなければ、漢字の正しい使い方はできにくいのです。はじめから、こういう形で教えてさえいれば、「てん木」とか、「木しゃ」とかと書く子は出てこないのです。

英語でも、はじめから、「nigt, knight, write, right」と、区別して教えています。「nait, rait」とは教えません。これは、世界じゅう、どこの国でもやっている文字の教え方です。ただ日本だけが、はじめに正しい書き方を教えないで、子ども用の書き方を教えているのです。「人のふりを見て、わがふりを直せ」ということわざがあります。しかし、それが正しいやり方であるなら、外国でどうやっていようと、自信をもって、ひとりわが道を歩いて行くべきです。しかし、わが国のいまのやり方は、わが国だけのものであって、しかも、どうもまちがっているようです。いや、いままでのわたしの実験は、はっきりとまちがっていることを証明しています。